

杖道の第51回全日本大会（10月13日・京都市武道センター、全日本剣道連盟主催）三段の部で、全十勝剣道連盟杖道部会の市川美智子（52）＝帯広市＝が松枝桃子＝札幌市＝とペアを組んで優秀賞に輝いた。五段の部では同部会の山本直人（37）＝音更町＝が古野聖児＝網走市＝とペアを組み、4強入りを果たした。第35回北海道大会（10月27日・札幌市産業技術教育訓練センター）では、二段の部で同部会の松本律子（65）＝音更町＝が、五段の部で山本がそれぞれ優勝した。（織戸駿哉）

# 杖道市川

## 全十勝剣連 優秀賞

### 三段の部

# 全日本

## 山本は五段の部4強



全日本大会五段の部で4強入りした全十勝剣道連盟杖道部会の山本直人（右）と三段の部で優秀賞に輝いた市川美智子（中央）。左は、道大会二段の部を制した松本律子

## 札幌の相方と入念準備

市川

○：全日本大会三段の部で優秀賞に輝いた市川美智子は「最初の試合はすごく緊張したが、だんだんほぐれて2回戦以降は普段通りにできた」と大会を振り返った。

### 昨年の雪辱へ 緊張顔に出さず

山本

チーム北海道の声援も後押しとなった。試合がない北海道の選手たちが一体となって応援してくれた。「励みになった」と市川。

ペアを組む松枝桃子は札幌在住で、時間を合わせて札幌と帯広の往復を繰り返して、入念な打ち合わせを重ねて技が格好良く見えるように努力を積んだ。市川は「最初は全然息が合わなかったが、やっていくうちに他の人と合わなくなるくらい。今では松枝さんがい

い。」

○：全日本大会五段の部で4強に入った山本直人は「入りを大事に試合に臨んだ」と振り返った。去年、初めて五段の部に参加したが、1回戦敗退と納得のいく結果を残せなかった。2回目の今年は「緊張しやすいので見えないように」。内心は緊張しつつも、平然な表情を保った。話を聞いていた市川と松本

## 松本道大会二段優勝

### 間合いぴったり

松本

○：道大会二段の部で優勝した松本律子は「気合勝ちしたかな」とほほ笑んだ。太刀を信頼しないと好パフォーマンスを発揮できないのが杖道。この日、松本は太刀を務めた女性と間合いや息づかいが合い、実力以上のパフォーマンスを出せた。

術をやっているが、はかまに憧れて杖道に挑戦。松本は「自分だけが頑張るのではなく、相手に合わせて戦い、相手を尊重するところが杖道の醍醐味（だいごみ）」と話す。

大会後の昇段審査では三段に昇段。松本は「三段はぐっと厳しくなる。ただ、講習が段別に行われるので、上のことを教わる機会が増えることはうれしいし、楽しみ」と年齢に関係なく、学ぶ姿勢を持ち続ける。

### 杖道部会がメンバーを募集

全十勝剣道連盟杖道部会ではメンバーを募集している。問い合わせは同部会の高木万里子さん（090・2699・3886）もしくは公式Facebook＝QRコード＝まで。



全日本大会終了後に行われた道大会五段の部では、道内の強敵を倒し、頂点に輝いた。山本は「来年こそは五段で全国優勝を目指す」と全国の頂点を狙う。

は「ええ、緊張しているなんて知らなかった」と驚いた。ペアを組んだ古野聖児とは2014年から組んでいる。お互いの事情もあり、しばらくペアを組めていなかったが、昔からの作戦の練り方、新しい技を取り入れるなどして調整した。準決勝で対戦した長谷川澄子・矢崎貴紀ペア（神奈川）の長谷川は過去に四段の部決勝でも当たった相手で、今回も勝つことはできなかった。「自分のミスで判定を取られた」と山本。去年1回戦で敗れた相手も神奈川代表と、山本にとつて激戦区・神奈川代表との試合は乗り越えなければならぬ壁だ。